特定－第２表　事業者のエネルギーの使用量及び販売した副生エネルギーの量

エネルギーの種類	単位	使用量 数値	使用量 熱量GJ	年度 販売した副生エネルギーの量 数値	年度 販売した副生エネルギーの量 熱量GJ
燃料及び熱 原油（コンデンセートを除く。）	kl				
燃料及び熱 原油のうちコンデンセート（NGL）	kl				
燃料及び熱 揮発油	kl				
燃料及び熱 ナフサ	kl				
燃料及び熱 灯油	kl				
燃料及び熱 軽油	kl				
燃料及び熱 A重油	kl				
燃料及び熱 B・C重油	kl				
燃料及び熱 石油アスファルト	t				
燃料及び熱 石油コークス	t				
燃料及び熱 石油ガス 液化石油ガス（LPG）	t				
燃料及び熱 石油ガス 石油系炭化水素ガス	千m^3				
燃料及び熱 可燃性天然ガス 液化天然ガス（LNG）	t				
燃料及び熱 可燃性天然ガス その他可燃性天然ガス	千m^3				
燃料及び熱 石炭 原料炭	t				
燃料及び熱 石炭 一般炭	t				
燃料及び熱 石炭 無煙炭	t				
燃料及び熱 石炭コークス	t				
燃料及び熱 コールタール	t				
燃料及び熱 コークス炉ガス	千m^3				
燃料及び熱 高炉ガス	千m^3				
燃料及び熱 転炉ガス	千m^3				
燃料及び熱 その他の燃料 都市ガス	千m^3				
燃料及び熱 その他の燃料 （　　）					
燃料及び熱 産業用蒸気	GJ				
燃料及び熱 産業用以外の蒸気	GJ				
燃料及び熱 温水	GJ				
燃料及び熱 冷水	GJ				
燃料及び熱 小計	GJ				
電気 電気事業者 昼間買電	千kWh				
電気 電気事業者 夏期・冬期における電気需要平準化時間帯	千kWh	（　　）	（　　）		
電気 電気事業者 夜間買電	千kWh				
電気 その他 上記以外の買電	千kWh				
電気 その他 自家発電	千kWh				
電気 小計	千kWh				
合　計GJ			Ⓢ		Ⓣ
原油換算kl					
前年度原油換算kl					
対前年度比（%）					

備考　「夏期・冬期における電気需要平準化時間帯」については、昼間買電の内数であるため「（　）」としている。「電気」の「小計」で重複計上しないこと。

特定－第３表　事業者の全体及び事業分類ごとのエネルギーの使用に係る原単位等及び電気需要平準化評価原単位等

1　エネルギーの使用に係る原単位等

番号	事業分類	事業分類ごとのエネルギーの使用に係る原単位等の計算 エネルギーの使用量（原油換算kl） Ⓐ	販売した副生エネルギーの量（原油換算kl） Ⓑ	Ⓒ=Ⓐ-Ⓑ	Ⓒの構成割合（%） Ⓓ=Ⓒ/Ⓤ×100	生産数量又は建物延床面積その他のエネルギーの使用量と密接な関係をもつ値 Ⓔ	エネルギーの使用に係る原単位 Ⓕ=Ⓒ/Ⓔ	エネルギーの使用に係る前年度の原単位 Ⓖ	エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比（%） Ⓗ=Ⓕ/Ⓖ×100	エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比の寄与度（%） Ⓘ=Ⓓ×Ⓗ/100
1	工場等に係る事業の名称									①
	細分類番号					（名称：　）（単位：　）				
2	工場等に係る事業の名称									②
	細分類番号					（名称：　）（単位：　）				
3	工場等に係る事業の名称									③
	細分類番号					（名称：　）（単位：　）				
事業者全体		Ⓢ　（合計）	Ⓣ　（合計）	Ⓤ（合計）	100%	Ⓥ（名称：　）（単位：　）	Ⓦ	Ⓧ	Ⓨ=Ⓦ/Ⓧ×100	
									Ⓩ=①+②+③+…	

備考　1　エネルギー管理指定工場等及びエネルギー管理指定工場等以外の工場等を事業分類ごとに合計した値をそれぞれ記入する。
2　工場等に係る事業の名称及び細分類番号は、日本標準産業分類とする。事業分類が４分類以上になる場合には、項の追加を行うこと。
3　事業者全体の「エネルギーの使用に係る原単位Ⓦ」の算出が難しい場合は、「エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比の寄与度の合計値Ⓩ」を事業者全体のエネルギーの使用に係る原単位の対前年度比としてもよい。その際、ⓋⓌⓍⓎは記入不要。
4　事業者全体の「エネルギーの使用に係る原単位Ⓦ」が算出できる場合は、事業分類ごとのⒶⒷⒸ及び事業者全体のⓈからⓎまで記入すること。